
エルおばあちゃん達

枯葉花

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

エルおばあちゃん達

【Nコード】

N9646Y

【作者名】

枯葉花

【あらすじ】

仲良し(?)四兄弟は、英雄とつたわれるエルおばあちゃんのこと、気がなつて気になつて……。そんなエルおばあちゃんの過去のお話。

プロローグ

「おねえちゃん！！大発見だよ！！」

おねえちゃんと呼ばれた、ウールは顔をしかめた。弟であるナイロンが『大発見』と言うのは、たいてい悪いことなのだ。

「何？ロン？あら、けど私。おかあさんに、暇だったらお手伝いしてねと言われてたんだわ。暇じゃないけど、親孝行しましょうっと。」

ナイロンは、姉にかわされたことに気づくと、真っ赤な目で睨んで叫んだ。

「ほんとに大発見なんだよっ！！おねえちゃんが知りたがってた、ポリエステルおばあちゃんの事なんだよ！！」

ポリエステルと聞いて、ウールは目を輝かせてまくしたてた。彼女は喋るのが好きなのだ。

「ほんとに。ホントに？ポリエステル？エルおばあちゃん？あの？ホントにホントなのね。ロン。嘘だったら、承知しないわよ？え、けど。おじいちゃんが全然見してくれないじゃない。なのに何を見つけたっていうの。ロン。ああ！！ロン。早く見せてロン！！」
狙い通りポリエステルに過剰反応した姉を見て、ロンはにっこり笑うとからかってみた。

「ああ。残念！！けどおねえちゃんは親孝行するんだ！！」

ウールは墓穴を掘って、弟に傷つけられている自分の自尊心より、エルおばあちゃんのが気になったので、先を促した。

「早く出して。」

「・・・持ってないんだよ。おねえちゃん。今から取りに行くの。」
それを聞いたウールは、やっぱりデマだったのかと、傷ついた自尊心の方を心配した。

「僕、聞いたんだ。おじいちゃんがね、ベラおばさんが来た時。必死に『なあ。くれんかのお？ライフコンピュータ。いいじゃろ？

何でそう隠すのじゃあ……。』って言ったの。エルおあばあちゃんは、ライフコンピュターを付けてたんだよ!！」

「嘘!!あの時代はまだ世に広まってなかったはずよ?」

ナイロンは一生懸命、無い知恵を働かして姉に説明した。

「だから、ライフコンピュターを作ったのは・・・カ、カ、ええいつ!!ひいおじいちゃんだったろ?」

そのセリフだけで、弟が何を言いたいか分かったウールは、すぐに外着に着替えると、クズグズしているナイロンに向かって、早口で命じた。

「ロン。ウレを呼ぶのよ!!後、チビちゃんも。ウレに連れてこさせなさい!！」

慌てたロンは、一目散にウレの部屋に飛び込むと、さっき聞いたことを、そのまま言った。

「ウレを呼ぶ。あ、今やつてる。後、チビちゃんもウレに連れてこさせなさい!!だって。ウレタン兄ちゃん。」

「はあ?お前は何が言いたいんだ。あのチビを俺が連れてってやれって?どこに。」

「だ、だから。ほら。ベラおばさん家。」

と、言うことで、全員揃ったベラおばさん家では、ベラおばさんとの交渉が始まっていた。

「う、うん……。け、けど……。エ、エルちゃんは……。誰にも・・・み、見せるなつてエ……。」

すると、今まで不機嫌だったウレ・・・ポリウレタンが、サツと前に出てきて、はにかみながら説得にかかった。

「ええ。ベラおばさんは何も知らない。だから、いまから言うことにして頂けますか?」

「う、うん。エ、エルちゃんの孫とは思えないわ……。い、いいわよ……。どうしたらイイの?」

ベラおばさんは、年とは思えない美しさで聞き返してきた。だが、

ポリウレタンはその美貌になれてたし、自分自身も、美形なことを知っていたので、大して気にせず話を進めた。

「勝手にエルの孫が来て、自分はダメだといったのに、ウールが『借りるだけですから』と言い張り、さっさと盗んでいった。と。言えばいいんですよ。ベラおばさん。」

ベラ・・・イザベラは、分かったという様に頷いて、ライフコンピユーターを渡した。

自分が言われたことに、疑問を持ったが自分が見たいといっただので、しょうがないと兄を見つめると、当の兄は、小声で『バーカ。反論しろよ。全部てめえの責任だぜ?』と言ってらアイコン（略してみた。）を持って去って行った。ロンは、姉の騙されやすい性格を笑うと、兄を追いかけて行った。

『この子は、私とアージュ・・・いえ、キュブラの間に生まれた愛娘。』ライフコンピユーターはそんな始まりだった。『この子の名前は、ポリエステルにしようかと思うの・・・だって、基本でしょう?素材の中の。』こののろけ話を黙って聞いている、ポリウレタンではない。

「おい。こんなのどうでもいいだろ?さっさと、問題の12歳へ飛ばそうぜ。」

「わ、分かってるわよ!!そんなの!!」

『ノメリコミタイプニヘンカイタシマス』

・・・ポリウレタンを除く3人がのめりこんでいった。

「また・・・。おいてかれちまったなア。」

。後に残ったのは、ポリウレタンの悲しみに満ちた声のみだった・・・。

プロローグ（後書き）

ちなみに、ポリウレタンは美形です。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9646y/>

エルおばあちゃん達

2011年11月28日23時59分発行